

22

千代田区景観まちづくり重要物件

高島邸

指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 神田駿河台四丁目 2 番地 9

設計者 不詳

竣工 昭和初期（1927 年頃）

文化財等
指定状況 景観重要建造物



▲高島邸

歴史・文化的特徴

高島邸は、関東大震災の復興期である昭和初期に、神田旅籠町（現在の外神田一丁目5）にあった伊勢丹の役員の屋敷としてつくられました。江戸時代、駿河台は旗本クラスの屋敷地であり、明治期には実業家の邸宅や病院、学校などがつくられました。関東大震災の後、駿河台は東京市内で初めて区画整理が行われた場所です。その駿河台の地において、高島宅は当時の御屋敷町の面影を残す貴重な建物となっています。

意匠・構造の特徴

建物は近代和風建築です。増改築はほとんどなく、原型をよく留めています。

屋根は日本瓦葺き、銅板葺き、外壁は板張りの比較的大きな住宅です。部屋数は1,2階合わせて12室もあります。2階東側にはベランダも作られています。

敷地をぐるりと囲む塀は、石垣の上に板と漆喰塗りの壁を持ち、瓦は一文字葺きで、一枚板でつくられた門戸の構えも重厚です。

周辺景観との関係

高島邸周辺には重要文化財のニコライ堂のような歴史ある建物があり、高層ビルが多い駿河台における都会のオアシスの空間を形成しています。

近年建替えや再開発によって周辺の景観が一変していますが、高島邸は、以前のたたずまいを残す貴重な建物となっています。

幽霊坂から淡路公園に向かう角地に立地しており、敷地をぐるりと囲んだ石垣と塀が、アイストップとなって目を引きます。